

ない。

○例へば我が緞縹を自慢して夫を馬鹿にする如き心副はん埃。

○夫を見下げ逆らう心養はぬ心副はぬ。

○但し母親のみの埃にあらす總べての病が一家族全體の理故夫にも埃ありて混合して病が發生するなり恰も種を蒔くのと陽氣と合ふて發芽するが如し。

○乳は伊弉諾伊弉册の命様である。左は父右は母チ、ハ、といふなり左は父か夫に對する不足の埃。右なれば母親不足か自分の勝手の理が現れる但し親といふても嫁入後なれば生みの親には滅多にかゝらぬ舅姑なり嫁に成つたら舅姑が本當の親である。

○乳の腫（乳腺炎等いふ）又乳腺神経痛等も略々同じ。親夫に不足を積み心に持つ腹立
○乳の止る 親夫に氣に入らぬいはれた事を氣にして怒つて居る親夫に逆ふ火の強い水かわく水を止める。

○乳を吐く 夫又は親のいふ事でも心に治めぬ理又食物を吐くのも同じ理にて又は夫

親に不足にて受け附けぬ埃。

○乳さび 其の子の備はりて五月の内におろそうかといふ心ある總て其埃から痛む。

○乳飲まぬ は親の心に物事呑み込みにくい心。

○乳首痛む は首は親なり。不足とかかみ付るとか、底意地の悪い心表面溫和しくとも親又は夫を不足にし人に足納與へようといふ心なき埃。

○流産 子の途中流れるのは五月迄を流産といひ五月以後は半産ともいふて此理は人間夫婦交合の大切なる事を大切と思はず總て色情猥らなる理。

○表面には見せずとも十分心に舅不足小舅不足親なき時は夫不足段々續ぎ居ると我身にかゝつて来る。

○表面優しく見せて居るとも心には實の無き理なり大抵女の方が七八分其心の理あるなり

○親と意見合はず親の懐に居らず言葉の中に居らぬ。心に眞實なき慈悲なき。

○夫の意見を何とも思はん保たん聞流す理もあり。

○氣儘夫婦にして子を流しおろしたる理。
 ○夫婦陰陽の氣の不合氣候不順にて萬物育たぬ如く。
 ○例へば男は疝癩女も短氣心の荒い合はん理。石ごろのがらくたの中に種蒔く如く寒冷にして草木芽の育たぬ如く夫婦の仲女の心強く眞實薄し地が冷わる如し。
 ○又夫婦心の合はん時の宿仕込は完全な丈夫の子が出来ん。虫喰の子出来るも其時世界の陽氣も同じ事。

●死産 親に不足が本にて子の宿りたるを不足にする埃でこんな子が出来ねばよいにか子を十分不足にする○人の恨を受ける理もあり。

●難産 常々心氣づい氣まゝにして親に逆らい夫に口答へ嫉妬の心深く口先ばかりの眞實にて心に人たるの道を渡らず守らず又總べての病が月日二神の意見又立腹には相違なれど其理を分けて云ねば分り難い故、二三日も出ぬは大食天様の御意見であるが引出のなきは大戸邊様で夫を不足の理なり身引が強いつまり高慢なり高慢だから夫でも不足になり

又總べてが不足になるなり。物の出し惜みの理は産とは意味を異にする。

○産の安くないのは心に喜べん平素の不足なり喜こびといふ子の出来るは喜の塊である
 ○又産の時眠りが付いたり欠伸が付たりして死するはいふにいへん心の底に親夫に不足の心ある平素恨み妬みの根性の強い。誠無き故人を繼なぐといふ繼がる優しい清浄な心が無い故國狭土様の御意見で産後を元の如くに御續下さる故下より風が這入りズーと死ぬる例へば人の言ふた事胸に持ち其場にてはいはす何時までも思ふて怨むといふエグイ心是れが即ち綺麗にない穢汚の心にて人と切れる心人間の心が其神様の心を無にする勝手心が強い故出てこん續げんからズーと死ぬる國狭土尊の理として續なぐ事が出来ぬのである。
 又産後が元の如くに續ぎ下さらぬ時は色々病氣が併發する。産褥熱などいふも皆同じ
 大食天尊が切つて下さつても大戸邊尊の理として引出す事が出来ん。大食天尊が肉縁を切り下さつたもの故半分は死んだ様な理なり國狭土尊が續ぎ下さらねばならん大食天尊が切られるから國狭土が御續ぎ下さる理が出来るなり。

墓かぶの引ひく力ちから身み引ひの強つよい力ちから此この心こころ埃ほこりが女をんなにあれば丸まる身みで死しなねばならん人じん間げんの心こころが強つよいから大おほ戸ほ邊べ尊のみことの道みちが止とめるから引ひ出だす事ことが出來できぬ。人ひとに手てを入いれて引ひ出だして貰もらふ此こ時ときは醫い者しやに大おほ戸ほ邊べ様さまの代だい理りして貰もらふなり。

●後産ごさんの出いぬ 家いへが不ふ足そく親おやが不ふ足そく夫をつとが不ふ足そく。例たとへば心こころ優やさしからず剛こう情じやうにて内ない心しんにては夫をつとはいふ迄までもなく舅しやうと姑しやうとめ不ふ足そくの心こころ面おも白しろくなき時ときは幾いく度ども親おや里さとへ歸かへらうと思おもふ心こころの埃ほこりあり

○妊にん娠しん中ちゆう夫をつとを見み切きる心こころ。

○我が慢まん高かう慢まんにて我わが偉はいと思おもふ人ひとを使つかい見み下さげ人ひとにすききらい。

○前まへに男をとこあり思おもひ殘のこりあり又また恨うらみの因いん縁えんあり。

●逆さかか子こ 足あしを出だす産さん。親おや夫をつとに逆さからう逆さかかの心こころ、人ひとのいふ事こと逆さかに取とる如ごとき曲まがり根こん性じやうあり。○根こん性じやう悪あくしくむごい心こころ。○親おや元もとへ歸かへらうご思おもふ心こころ。

●横よこ子こ 手てを出だす横よこ産さんは横よこ様さまの心こころ己おのれの事ことは横よこな事ことでも堅たてて思おもふ人ひとの事ことは立たての事ことでも横よこに思おもふ○人ひとの物もの欲ほしこころ間ま男をとこ不ふ義ぎの理りもあり。

●尻しり産さん 恩おんある人ひとに横よこ道どうな應おう對たいする目め上うへに立たてづく心こころ○親おや夫をつとに尻しりを向むける尻しりにしく理り、誰たれの子こやら分わからんといふ子こが出でる。

○親おや里さとへ歸かへらうとする埃ほこりもあり。

●赤あか子この目めを明あけぬ 是これの深ふかき埃ほこりにして親おや不ふ孝こうの理りあり。

●大おほ血ち (女をんなの血ち降ふり) 色しき情じやう間ま違ちがひの埃ほこりにして娘むすめなれば親おやに知しれてはナランご思おもふ心こころ配はいして居ゐる色しき情じやう心しん得と違ちがひ。

○例たとへば月げつ水すい二に三さんヶ月げつも止とまり妊にん娠しんと思おもふ處ところ一ひと時ときに月げつ水すい多おほくなりづるづきがつくとか甚はだしきは死しする此こ埃ほこりは氣き隨ず氣き儘ままにて内ない證せうで男をとこを拵せわて大おほ心しん配はいして其その時とき起おこるもあり又また同どう様さまなる事ことにて親おやに心しん配はいさし一ひと二に年ねん後ごに起おこるもあり。

○又また或あるは娘むすめ又は妻つめ月つき經けい俄にかに太ふとくなり長ながくして苦くるしく顔かほ青あせざめ起た居ゐも出で來きざる者ものあり娘むすめなれば母はは親おやが人ひとの妾てかけとなりて本ほん妻さいに恨うらみを受うけし埃ほこりあり。中ちゆう年ねんに此こ埃ほこり現あらはれたれば其その身み人ひとの妾てかけとなりて怨うらみを受うけたる是これ等らは改かい良れうせねば短たん命めいなる事こと必ひつ定ぢやうなり。

又流産して出血下り物止まらぬ障あり之等も親にも夫にもいわれぬ心配の事あり其心配とは色情のあやまりなり。

○夫を見下すから我身が下る、夫に大切の理を崩し心治らす情薄き。

●血癢血振 例へば我身氣儘を先にして亭主の氣まゝしたるを十分腹を立て夫や先方を苦しめたる埃。

●血の道 夫の心に副はず我儘不貞の理。○我儘にて勝手近道ハシぐにまで心盡し

心運びの足らぬ血の道より道が違ふ。

○血の道は女の道を通らぬ人すべて見分て諭すべし。

○筋道の立たん○色情間違もあり。

○心變り易く氣隨夫の言葉にそむく目上を言葉で押へる。

○心細かい故思ひ事の満ちきる思ひ詰めるを血の道といふ。

●妊娠中 健康で子を産むと病む者あり夫又親不足にして例へば夫の品行氣隨を不

足にして何事も堪わく居ながら心に不足の熱思切れぬ發散の出來ぬ如し但し産後の病ひは我れの氣隨氣儘にて親夫不足。

●憂鬱病 日々心喜ばず樂まず、勇まぬ埃でこんな事ではあんな事では面白くない

くと日々喜ぶ事を知らぬ。心の眞の慾深い足納を知らず不足より起る。

●長血 我身方を大切にして亭主の身方を粗末にする不貞女不孝の理同じ不貞女でも食物の禮があるものは白血に掛らんなり。

○色情の間違あり恨みを受る。

○色情に慾をかけ一人で事が足らいで多く男を持ち又強慾にて金を貪る汚なき心。

○身を道樂に持親夫見下し、又子をおろしたる罪等。

○我慢強く親のいふ事親が萬事世話をやく事聞入れず我が氣儘にする故に人と意見合はず

嫁入先きで人のいふ事を用ひず不縁する如き我儘の因縁を作り。

○親夫兄弟等に對して日々の慈悲親切といふ心少しもなし。

●白血 (白帶下) (長血から白血となる。同じ理皆子宮の病なり子宮の理と参照) 食物を自分が夫より先きに甘き物でも先きに食ふすべて禮を失ふ。此の理が臺故夫れから色

々の事が起るのは見分なり白血は夫を夫と立てぬといふ食物が第一だが其の理を悟らねばならん夫を夫とせんといふ又暖かい御飯でも自分か先きに食ふといふ神様でも御初穂を供える様なものそこから色々の間違が生ずるが臺はそこにあるなり。

○食物を拵え親夫に隠してつまみ食い口いやしき埃故食ふても身に付かず出る。

○亭主を十分あなごる借物知らずに勝手氣まゝに使ふ理にて血が流れ肉がさがる。

○元なる男の妬みあり妬みの最も重い奴、例は永く心安くした夫を捨ててしても後に男を拵えるとか逃走するが如き。

○月様は水の神にて水は誠、誠は親の言葉其の親の誠の言葉に保たぬ理。

○日様は慈悲の神其の慈悲をするとは食物を興へるが第一なれども其食物を惜しみ食はせても惜しいと言ふ心の人に恵みなく又育てる心の無くして惜しみく／＼て食はすは粕を食は

す如き理にて粕の出る處へ白血が流れる血は温み温みが無くなるで冷えるで寒ぶい是れは水くさいといふ埃なり。

●子宮痛 前世に其道にて十分の色情の道通りぞこないからして宿つて子がしまうてある。

○夫に不貞女負ける心なく剛情我の強き我れの勝手に引付ける。

○愆深く出し惜み強き心。

○夫を嫌ふて切る。

○夫を尻に敷き人の男を盗む恨みの埃我が夫より間男が好きといふ心。

○心の定まらん親里へ歸ろか居ろかど。

○前世持越しで色情で男をだまし金を取り込み其男を水くさく切るが如く子を宿仕込む處で金を宿仕込むといふ如き。

○夫に素直になき故不足積ます不足のかたまり疳。

○縁談は我れの氣儘に破る。

(來世は牛馬道に近し)

○血塊 色情の心得違ひから起る氣隨氣儘にして例へば色情猥だら氣儘せんとする女といふものは孕むのを心配なるが、若し孕んだらおろすでよいしまうてかまわんといふて身をまかす孕む位何とも思わす行ふといふやうな穢多の非道の恐ろしき心で人面獸心の埃。

又最初二ヶ月三ヶ月位子のやどりたる様なれど百日位より毛を生じ子宮を痛めるによつて子でなく病なる事を知る之れは毛塊といふ血塊と同じ埃なり。○或は腹中に血塊出來て痛めるは夫婦相對して孕兒を墮胎せし埃もあり是等は皆改良せぬ時は一命危ふし。

○總べて血塊は性質取返は何事も好き世界の握かみ慾第一は色情の慾(子袋傾く又かやるが元となる。

○又縁談に無理の結び方等總べて怨まれ又恨にて生ずる者あり。

○縁談色情の道に付て我身勝手氣儘の埃なり。

○女の瘡 の出來るは氣隨氣儘にて親不孝親又は親替りの恩人の意見を聞かず大恩を無にし我がすきのまゝ身持崩す。

○さめはだ は前世より情け心の薄き又なき因縁なり人と續がらぬすべて人の心に合はぬ人を續がぬ性質。怨みの因縁あり。

○腹に塊出來る はシコロともいふ慾高慢の埃。物事隠し打明けすねたみ怨合ひ。

○人に恨められる種蒔いて有り恨の塊となる事あり恨みを解き双方柔かな心になるべし例へば縁談の堅き約束を崩し人に耻をかゝすとか人の心を苦めるが如し。

○或は妊娠中甚だ子を不足にして産後に出來る者もあり。ごおかして子を流さう〜と巧んだ理もあり。

●例 話

五十七歳婦人沸へたる熱湯にて大火傷。此人は性質優しからず中々勝手心強く若き時は母と心合はず又嫁しては姑と心合はず

其勝手心が改良出来ぬ故貫ひし嫁共心合わす吾が身に氣に入らぬ不足の埃積りくくて現わる。故に勝手心強き處十分改良し母姑に懺悔の爲め通り返るし濟ますには嫁と充分仲よく心に不足無き様改むべし。

廿二歳婦人出産後發狂。

此人性質は心至つて變り易くよき時には至てよく又氣に入らぬ時には腹立甚しく前後を忘るる又人に合ふ人と合わぬ人との分け隔て心強く又此縁談夫婦仲に大不足の埃あり。

子供(小兒)之部

●胎毒 妊娠中に親夫を不足にした埃。

○夫婦仲心 治らん縁を切る心 使たるか親及頭に立つ人を恨め埃の毒心を以て續ぎを切る心。

○腹の中にならぬ心有り胎は腹の中も同。

○月經中交合其毒を受けるのもあり濕疹などいふも小兒に多く生ずる腫物にして胎毒と類似のもの同じ埃なり。

或は兩親が梅毒に罹ると其の残る毒がある時妊娠して其毒を遺傳せるものも少からず又疾濃い性といふ如き。

○子供頭の草月經の時交合し其毒が頭に登り草氣胎毒となるものありかさぶたになるは例へば母親がよき事は恩にさせる又悪しき事は人にかぶせる心總べて我れの悪しき事を人に知らせまいとして人にかぶせる理。

●身柱 双方心の切れる理ちぎつた理でちりげといふ。(夫婦仲が第一)

●小兒虫氣疳 (急癩ひきつけ) 氣の短かい疳癩の心の埃引ける三歳迄は母が此心あれども表面には人に氣兼遠慮して其極氣短きを外面にはよろおこらずに居る身引きの理。○疳で引けるは夫婦及總て双方心の合わぬ理互に我勝手を引く不足にくくを積む疳所謂虫が合わぬ理心の突張合ひ擦合ひ不足の疳○親のかわい過る食物に不足を積む。

○引付けにて黒目上へはいるは目上の人に立つく理下は目下横は世界の男女又親の心に捨てる心ある理小兒が食物に非ざる物を食ふ病も疳爪から虫の出る病も疳の埃

●小兒の池はまり死す は大恩を無にした理なるが前世今世の埃。○又親の心に捨てる心あり。又小兒の虫食ひからだやせ衰へて居るのも親の不足の埃で捨てる心有もの多し。

●麻疹 家計上に付きすばしころ通ろうくとする埃。○こすいせすいつよい心にて人の事には身惜出惜我内我身に付ける心。○夫婦心合はず戦い同じく夫婦の中物の不足の思合ひ争論。○皮と身とのへだてををする金銭のすれ合ひ。○はしかいものといふ心のあつかましい不足の理。金銭に付て又萬づ續ぎを切る。○一度罹れば大抵免疫性となる。

●小供火傷 親の心我の強き腹立合ひ怨妬み合ひ兩親の誠のなき心から足納堪忍出來

す互に不足負け惜耗惜み喧嘩争論すれ合ひにて續ぎを切る内輪の續ぎ又は外の續ぎを切る又親不孝も同じ理。色情間違もあり。

●乳呑子鼻つままる 時々鼻つままるのは之れも時々氣に入らぬ時むつとする心なり心が通せぬ埃。

●乳呑子育だたぬ 授かつた子が育たん死するは第一は根に切れる親との間に切れる心根切れてあれば花は咲けども實が乗らぬ夫婦の戦い嫁と姑との心の戦いが元養子と親とも同一夫婦の不和離縁。

身に持つ内は花花が散つたら實が落ちるのは根がないから根に切れて居からの事根がなくて實が乗らん親に切れる心の理日々心の喜べん不足から切れる心を使ふ心が天に供わる。總べて埃は一分づつでも十度に一寸百度積めば一尺となる善惡共同じ事なり。皆我身の因縁といふ事を悟りて足納するから惡因縁が切れる。赤子が夜でも晝でも知らぬ間に死するとか皆同じ事。

○人に慈悲心 即 誠の無き埃縁談無理切りの埃。

○子をおろし子を粗末にせし埃等。

○天地陽氣合わざれば萬物育たぬも道理は同じ。

○又妊娠中に子を不足にして此子が無ければよいに／＼おろそうかど心で殺す心使いせし子供は命短かし或は十五歳以下とか中年に死すとかする。併し立替懺悔に依ては御許し下さる。

又小兒の死するは其病狀にて兩親の埃を知らせ下さる親の因縁を切る道にて其子の魂は同因縁有る者が宿つて其理を見又苦しむ親の因縁を切る爲めなれど改良出来ぬ時は亦死して他に生れ出て苦しむ其の魂の因縁の切れる迄は此世に苦しみに出る理が有る故に親が改良が出来れば其理に依て其子も助かる理あるなり。

●小供脱腸 (歌兒尼亞とも云ふ) 男子なれば父親妻に對する女子なれば妻が夫に對する格氣の腹立うたがうての埃。

○我身を立人を立ぬ欲い惜いの思積る人に物興へるを惜む慾深く出すべき事出惜。

○心の落つかぬ定らん。

○色情にて汚い道を通る理。

●小兒の寢小便 は (前項の膀胱加答兒參照) 夫婦の仲心合わす、又多く食物にいやしきと前に縮りなき埃り多く親が其行爲其時に宿る子供多いが其人によりて一定にいふべからず。

●小兒水疱瘡 夫婦心の互に勝手強く心の治らん不足にて切る理。

○我が内さへよければ人はどうでもかまわんといふ如く慾より擦れ合ひ續ぎを切る。

●小兒脾疳 大人の腹膜炎と略々同じ理なり。例へば人に食わす事を惜む人の物は惜

まず食べる如し。

○高慢我慢にて十分不足あり人にいひたくなれど恩にからまれよういはぬ如き理。

●小供の流涎 口先きのついしよ多き埃あり。

○或はだらしなき心。口のしまりわるきしまりなきしやべり様嘘をいふて人をたらかすが如き又夫が妻に惚すぎて居て妻の自慢をする理もあり。

●小供鼻汁たらず 餘り鼻汁を出すは心のごり水故親の心日々足納の出来ん汚なき又出し汚なき理たとへ何んば物のある内でも足納の出来ぬ性質の理。

●小供の熱 親の悪氣やける心日々不足夫婦のすれ合親目上目下の不和腹立合ひ心の熱。

●小兒久しく物云はぬ は親の言葉慎みなくいひ過たる理の裏。

●小兒久しく歩けぬ 遅きは親の立てるべき道を立す運ぶべき道を運ばぬ又は人の出世を止める心の理。

●小兒の何でも物を捨る は親の心に物を大切にせず粗末に扱かい捨てる心あり

●小兒の夜泣き 母親の心が夫に強い。

○親の残念。

○運ぶべき處へ運ばずすべき處へせず人に不足を付ける。

○又夫婦の心に喜こびなき埃あり。例へば夫の行いに付て妻が不足疳を起し夫をせめる寝かさぬが如き埃。

●骨の無い子 月讀 尊様に入込んで貰へぬので有故此理から悟る事。

●乳を噛む 抱いて居る時すべて何んでも格別に噛み付く小兒は理がある。或は本家か親元か親戚又親夫か何れ大切な處を不足にして切つて居る。はむかうと云ふ心なり。

はむこうと云ふは犬でも虎でも何でも噛むのは齒は武器で有る大食天尊一人前の者であれば及物でも持て向ふといふ理なり。此理より理を別ける。

小供生れつきに就て

人間一代の運は前世因縁として母親妊娠胎内十ヶ月の間にて定まる。夫婦の心を定規として造り給ふ。

- 人間容貌の善きに産れるは親妊娠の時何事も心捌けよく心奇麗にして人を續ぎ先きを案じぬ思切りよく萬事よく氣のつきたる心の理にて心美しく明かに持ち人に不義理をせず人に不足を與えず總べて人に好かれて來たる心。
- 目の麗しきすいやかなるは萬事目のあいた理にて情けある心にて曲り根性なく何事にも見分けよくして我身足納強く人を情けをかけ足納與へたる理。
- 耳の美しきは萬事人の云事に聞込よく聞分よく悪しき事は聞流しよき事は聞込用ひたる理。
- 鼻筋立ち美しきは萬事筋道を立てたる理にして人の道をくすさす理を立てたる理。
- 口元美しきは萬事口元おとなしく控へ目にして慎み深く言葉優しく人に逆はず人の悪口を云わざる理。
- 頭の格好よきは情け心を以て人を見下さず目上又人を敬い目下を憐れむ心の理。
- 物事の覺るよきは妊娠中心を静めて堪忍強く足納のよき理（前世は人間が古き者である

- 人間から人間に古き理あり人間に歸つて間のなき魂は智慧の働き物覺あしき理由もあり）
- 手の美しきは萬事能く人に手の行届きたる理。
- 足の姿のよきは人に何事も心の運びよき理を立てる理。
- 脊の高きは人に萬事行き届き心使低き理にて人に満足與へ理を立てたる理。
- 脊の低きは右の反對にして物事行届かぬ人を押える人に心續がざる高慢の理。
- 前姿のよきは氣質柔かにして人を續ぎ人と交際よく心美しく人の道を守りむさくろしき心使わざる理。
- 後ろ姿のよきは同じく心美しく人の道を守りむさくろしき心を使わず人をうしろに見ん心の理例へば人の頼み事をほごにせず人を續ぎ育てる心の理。

腫物（出來もの）之部

出來物一切の理は怨み猜みの理を心に包み居る故に皮が切れて表に現れるなり續ぎを切

○首切疔は人を無理にいちめ苦め遂に不意死したる如き埃にて首を繩にて縊りたる如くに現われる。

例へば重き面疔が廿四五歳の頃に出るとすれば當人の腹に居る内に夫婦別れをするといふ様なきつい心を使ふた理で其時に宿つた子は同じ因縁ある者が宿るなり。

○ひぜん 慾情の爲めに自慢我慢高慢三萬八百嘘八百といふ數三萬八百といふ理。

○得手勝手の強き心

○心の汚ないあつかましき慾金錢の續ぎを切る日々我身引身勝手にかき込む理が人にさらわれる心にて續ぐべきをつながず人に出すべき處に出さず冷ねたる理である温みを入れて治めきれない心なれば人に續がるから續がる色情に付ての理もある。

○人に施す心なく貰ふ事はかり好む心乞食金錢かきたくる我田に水引く如き心

○根太 (癩瘍血瘍などいふも同じ) 身惜骨惜みから人にいわれて不足するのど行ふて不足するのど。

○のぶといといふ人のものを何とも思はずまゝにする又ぬすむ理もある。

○例は我れすべき事を口先にて人を使い或は叱りつけ腹立したるか人に使われる者なれば何れせよとさいそくを受け不足腹立ながら働く如し。

○人より恨まれる事情もあり。

○田虫 金なき人なれば金を使ふ事に心配色情にもかゝる理は續ぎ一條にかゝる。概ね道ならん色情行ふて出る。例へば一代連添つもりでない女を副ふくと言ふて二人もあつてだます。りんき恨みの理。

○せに田虫は例は金を貸して返すか／＼案じる金錢の續ぎをよう思ひ切らぬ。

○すべて色情金錢に付不足するか人にさすか。

○或は男を欺き女を欺き金を取りて人に恨みを受ける如く商賣上でも同じ事値切り倒し欺きたり取りにするが如きの心又少しの物でも掛にして置く如く。

○心を腐らした理(但し出る所にては食物の事もあり)

○體中大田虫は例へば兄弟姉妹又近親の者に分け與ふべきもの（金錢物品）を與えぬ等。又離縁したる妻の物を身に付けてある如きの理から出る。

○田虫はすべて金錢縁談の裏表より出る。

○首に出来るは親に腹立てさしたる埃手に出るは取り込み握りたい埃。足に出るは我身腹立但し之れは一例なり。

●がんがさ 慾深く何事も人を恨み又人と續ぎを切る人に恨まれる汚れたる心にて總べて人に續がらぬ性質あり。

○月經中に宿り血筋の汚れを受ける者もあり。ガンガテとは冬季彼岸から彼岸迄ツバメガサは夏の季の謂ひなり前世色情金錢等。

●口の側の出來物 己れの汚ない事思はず人の事云ふ高慢目上又は人の惡しき事を種にしていふ埃。或は男なれば妻に不足ありはす口に含み當て事をいふ如き。

●しらくも （白癬ハタケともいふ）あつかまましき汚なき心妬み恨みで氣を腐らした

る縁談金錢の事情高慢強く人を不足親不孝等。

●顔に出る田虫 顔も場所と輕重に依り一定ならざるも概して色情に付て埃を拵え思ひ切れぬ心使いが現れる例へば女であれば夫に付いて格氣で氣を廻し心に角を生し格氣の氣を燃やす埃多し。

表てに出る田虫は多く此の理である母親よりの譲りの性質なり。

○縁談の無理切りの理もあり。

或は男女共に色情にて近かづきて金錢を借り貰いにせし如き埃ありて人をだまして金を借り返さぬ汚ない心故人が不足して心を腐らしよう思ひ切らぬ如きもあり。

●眉毛に出來物 は色情縁談の事情にして或は女なれば間男男なれば人の妻を盗む如き表に現るゝ理もあり。夫婦間の埃が現れる。

●頭の中の出來物 親の眞實を眞實とせず無にする埃にて例へばくどい／＼分つて居る知つて居るといふ風にして親目上の言ふ事用いず又裁もくどうに言過ぎる埃なり。

又親夫の目を盗み金銭物品をかくし取り無益に費す如き理もあり。又我れの悪しき事を
して人に知らせまいと人にかぶせる埃あり。

○總べて上を恨め不足腹立つ高慢我慢。

●**疣** 前生心汚なき慾の理にして日々我れのする事を恩に着せて氣高く仕た事の威を振
る。

○人に憎まれ分隔て強き心人の言ふ事を粕にする。

○我れが我で常々出しや張る心あり。

○縁談金銭に付思切れざる埃もあり。

●**肩に出来物** は第一親親方に對するの不足にして或は人の世話をしていづく迄も
恩にさせ不足言ふ如き心もあり。

●**全身ぼろくの出来て痒い** は日々事の始末仕過ぎて出すべき事にも出し
惜み續ぎの事に綺麗にない心。金銭縁談の不足。人に切れる心。

○又小兒なれば夫婦の仲切れる心使い。不足摺れ合ひ腹立つ。

○心の慾深く思切り悪しき性にて人を恨み又人に恨まれる埃あり。

○慾にして日々仕事にあせる不足例へば此忙しのにあの人は何をして居るかど我ればかり

働く様に思ひ長い日でも短かく思ふて不足にする如くで内々擦れくの理。

○我が體を苦にする案じの埃あり。

○縁談一條又金銭一條我思ふ様に自由用ならんと不足心使の理。

●**顔に草の出来る** 心の穢なき理にして恩人不足恩を腐らす理。恩人を悪くいひく

さし。例へば我れの悪しき事を人に知らせまいと人に被せる如き心にて夫婦親子の仲でも

罪のぬり附け合ひ顔の汚し合ひといふ様な理にて御道の上でも人が聞分らんとか届かん様

にいつて人にかぶせる如く總べて我顔をよくしたい爲めに悪い事は人に被せる口で甘い

事をいふていひ譯をする如く人の顔を汚す我れの内心のきたなき心を隠したる理が表面に

現はれるが如し。

縁談金銭に係る理もあり。

● 臍の廻に出来物 にて汁の出るは例へば食物に付き親と意見合はずしやべり合ふ如くいふて人に憎まれる案じ不足。

● 紀州 (顔類の腫物にて人の目下に在る身分の者に多く出来る) 是れは例へば一家の中に何かの理由で敵に思ふ程の人又は嫌ひなる人ありなれども我身に何かの望みある爲めに辛抱する心。

例へば内心には恨み腹立ありて不足く仕へ乍ら顔や口に出さずして辛抱し居る心が現はれる如し。

● 深瘡 此れは體に何處となく出来て産附け瘡の如し。例へば道ならぬ人の取持して甘く取込みたるか又金銭の冥加を知らず我道樂に使ひ果し親兄弟を泣かしたる埃。

● 缺失癆 近親親戚又は人の金を我物にして使ひ氣儘に使ひ恩を知らぬ埃り。又心に十分誓ひたる事あれども或は堅き定約を後に氣隨氣儘にて崩したる如き埃あり。

● 莖癌 (一之道具の腫物) 是れは氣隨氣儘にて人のいふ事如何に爲めになる事でも少しも用ひずやり抜き疳癪疳敵にして身を持ち崩し又身下身上をあなごり使ふが如き埃り。

● 胴飲 親主人の大切なる品或は金銭を我が氣隨に使ひ果し返濟せず尻をくれた埃。(ケツを向ける事)

● 七ごこばれ 女を欺まし財産を使ひ果し我れが思惑にしたる理又女に此出来物生ずれば男を欺まし我身は派手に暮す爲めに財産を丸取りの工夫したるか一方の男より金を欺まし取り又好きな男に入れたる埃。

痔之部

痔は目耳鼻口と飲食の裏なり。惜心が臺惜みが出る(血)表面は綺麗立派に見えても心の汚ないちくちの心強い。御守護は第一は雲讀様(口が表腔門か裏口から腔門迄此神様尿道も同)心の慈悲といふ暖みなくば水くさい冷えるといふ地が濁る泥の土には物が

生育せぬ乾きし土に天の濕いありてこそ物育つ如く。

何事も我慢高慢を先にして出すから人に思はれまい綺麗さうにあつて内心には惜みあり
總べて慈悲のない心故負け惜みから意地の悪いいぢくぢをいふ喧嘩口論等。

我口可愛い我身可愛い分隔て上口過れば下口切れる理あり。慈悲がないひわるといふ。
概して言葉の悪い酷い親不孝親又人に慈悲の薄い思切あしき意地汚ないといふ心味ひの理
あり親でも尻にしく人をイヂコネる心。高慢故惜み負惜み物を出しても心で惜い故之程天
に寫るきたない心はない我身が可愛から高慢をする。(表口は綺麗さうに見せ綺麗な事いふ
ても行はず裏口は汚ない如し)

●痔瘻 親不孝の理一番重い痔なり。(全痔瘻も同じ)

○例へば左に出来れば父親右は母後側は他の人と争いをする例へば地所の争いより我身に
引込む勝手氣まゝにし或は親又主人のものを氣まゝにへらして横へ横行たるが如し。
○何かの物も我れが巧み事を入れたら出さぬといふ悪氣なり。

○いぢこねて人を困らす人を人と思はぬ。

○縁談色情の心得違ひもあり。

○強慾にて人の缺點を拾ひ人の失敗を巧む如き心あり人に金を借りても返さん巧みある如
し。

●疣痔 身に付け度い心に巧みありて口にいはす悟れかしにいふ餘程賢い心人がせねば
不足になる。

例へば謀り事巧みにて口先上手に金儲け所謂蝦で鯛を釣る如き心あり。内心眞實薄うす
くこすいきたない。

○我世話すべき人間でもかまはん慈悲なき心。

○心の定らん腰のすはらん理切る心ある。

○人の尻をかき人の出世を止める心あり。

○人をだまして取込む心あり。

○恩の報しが足らん人に恨みを受ける等。

●切れ痔 出さにやならんものでも身のへつていく程に思ふて出す心出さんならんもの
出惜み。

○尻のすわらん疣痔と同じ例へば商賣なれば商賣替へで心の定らん女なれば二度も三度も嫁入してもまだ心が定らんで尻の据らん。内を切つて出るが如し。

○人の尻の結びの理を切るとか悪氣。慈悲なし。

●脱肛痔 例へば我身出すべき事に五圓入る所を三圓出して二圓は人に出さし骨折らし
て我身の働きのするやうな心なるべく出さん積りで日を延ばし押へる如き心。

○我れが欲いばかり我さへ食へばよい心人に返す事もきらう理。

○例へば人を裏面の蔭で働かせて我れの働きのするが如き心又人を偽りても取込みたき心

●はしり痔 物の出惜み負け惜みは勿論親又人に慈悲心なくして殊に母親又は男なれば妻に慈悲心なく水くさい心使い高慢心より口荒い悪氣をいふ。

○食物に不足小言をいふ人に分け隔ての心強き。但し出す事には負けぬ氣で出す惜み乍ら出すといふ心。

病諭例話之部 (實地諭の一例参考)

當年廿五歳男子、腹膜、咽喉胃癢、頷廻、風熱等の惱み。

一家の内の因縁を諭すには病人は勿論母親が亭主のする事成す事何かに不足にて足納は少しもなく我内の事には足らん／＼の不足の種がある母親にあるをよく諭すべし故に其通り返へしの懺悔すべし。本人は氣至つて短かく人を不足内々不足にして我爲になる慈悲な事をいはれても充分無にして他人にはよう見へても心安き者にはあつかましい事をいふて閉口さして氣儘我儘あつかましき慾なり。尤も十八九歳の頃目上にはいはれたる事ありて如何にも忌間／＼しい悔やしいと残念に思ひ何時か此鬱憤を晴らしてやらうといふ心底に熱あり是れが種にして目上の人や親に意見はして無念に思ふたる種を懺悔すべし。腹の脹

りは先きの用害身の用害身構まいの埃身構いと人のいふ事を素直に用ひずいはれまい負
けまい出しともなくへらしともなく末の樂に通りたい取込一條の心なり。又シコリが上
昇るは短氣氣儘にして見る事聞く事を不足にして腹を立て我あしき事をいはれまい爲めに
親をいひ込め困らして登りたる理なりそして我身の困りとなり是れでは助からんか知ら
んと案じ心あるなり。此悔み好き嫌い多し食道の悔みは第一親の恩を知らず幼少には乳で
育ちそれより食物を與へられて身體成長したる恩を忘れて日々我がおれがで威張り中々せ
すいこすい慾の深い勤考をして抜目のない理詰をいふて親又人を困らかし智恵を使い人の
する事を止めて我榮耀榮華で通りたき慾の強き顯れにて慾深き故に萬事に移り變りが早く
定めた心崩れ易すし定めた通り是迄の懺悔すべし。咽喉の息の通る處の惱みはあゝいへば
こうくゝいへばあゝと心でコナリ眞に聞かん用いんといふ心より恩を無にして人が我身に
對して骨折りの恩を忘れ何も構まはん薄情と顯はれ。脹れの廻るは強く疑ひ心の深い理に
して身引あつかましき慾なり。鹽がしむは鹽は大食天尊の御守護にて慾にて思切悪しく

人に味なく又内々の者には味の善き言葉なく只我身の立つ事我が理の通したき事許りに
て腹立憎みの言葉にて人に腹立てさして負往生をさしてある理の顯はれなり。

當年五十歳男腦貧血病にて眼病の論し。

此理は本人の親の身代のやり方はとりやり方にて親のやり方を不足不孝と思ひ何んでも
親より優つた身代にして末を樂に通らうと思ふ爲めに萬事に慾深くして働き何んでも身代
を殖やそうと思ふて他の身代のよい處を眺めてあの様に何うぞしてと思ひ込んで登り切り
たる埃。此人は母親には餘程不孝である。故に此人の性質はこすいせすい慾の深い出し汚
い持前である又息子や嫁のする事は思かなまどろしくて不足である。故此邊の心を改良
し足納を定め懺悔すべし餘程しつかり懺悔をせざれば向ふ三年中には盲眼となるのは天命
の至る處なり。

當年五十一歳女盲目の論し。

此人の前世に行ひたる心を論すには至て氣隨氣儘にて夫を嫌ふて氣儘の道を通り亭主を

あるが無しにし氣儘我儘にて登りたる故に女の道たる處は少しも守らずして夫には不貞女親には不孝の性質あるから現世にて夫に別れるか又不都合なる夫に係りて身の不自由となる。右の目の目がさにて遂に一眼潰したるは目瘡といふは女たる道を通らずして心が充分横着にして夫をあるが無しにして氣隨氣儘の道を通りたる理の顯らはれ夫と定らん先きなれば色情の道にて親不孝といふ理にして又人の目を十分掠めたる埃なり。又左の目の惱みは性質氣儘の慾深き故に眞に亭主とは心が合はず亭主を馬鹿にして我身の先きの用害をなし我れが家財迄も自由になさんと巧みたる埃あるなり。

總べて、盲目となるのは前世に色情慾情に付て何を見ても足納出來ず、欲い惜しいで人の目を掠め天の目を掠め暗がりやを好んだ理で十分惡事を働きた理を盲目にしたる罪にして目が貸して貰ねぬ。或は人の目暗まし物を盗み欺偽強盜等、或は色情にて人の妻や夫に目を付けて不正の獸慾を盡し人の妻であらうが夫であらうが人の道を破壊人の難儀も顧す自有ても見分をせず女なれば人の夫と姦通し或は男のさけくらべをなし男を捨てるか男

なれば同じく人の妻を盗み取るとか心得違ひの道より大罪を作り又子を水にし暗闇に落す等皆氣隨氣儘にして強慾を盡し又親不孝は勿論不貞女人に情けも慈悲もなく天理として月二が目に宿る事が出來るのである。

當年二十一歳男幼少の時より寢小便が出て折々取返す論。

此男子の母の胎内に居る時又前々に色情に心わかし道ならぬ色情を隠くし〜て行ひ親夫に隠くし〜て行ふたる中に妊娠したる因縁の男子にて當人も若年の時より身持道樂にして不正なる色情を好み又夫婦結婚の堅き定約をなしたる者を勝手に崩したる理もあり親の言い情を逃して用いず萬事氣儘なる行爲にて時々心を變じて心に定まりなくしまりなくなる理の顯われにて是れを懺悔するには親の性質より我身の身持道樂して一生氣儘に通ろうとせる心の根より親の物を搾り取り人の物を搾り取りたる理を思出し眞實より改良すべし。

此身の障りは所謂牛馬に等しき故に一家内中治まらずして萬事思い立つ事が段々逃れて

無駄なる事になり費して埃りとなる故に克々立替へが専一なり。

當年五十一歳リウマチスの論し。

此人は親の云事を用いず聞かず夫には口先で立て、居る丈けにて心から立てず心合わす若き時廿三四歳の頃に蒔きたる氣隨氣儘の色情の種があり其の好きの道を通りて男を恨み又人より恨まれてゐる。其思ひ立ちたる時親のいふ事も又伯父伯母恩ある人のいふ事も聞かすして行ひたる理の現われにて性質が強情にて我慢高慢で萬事我れのいふ事はよい様に思ひ我れの理を立て親を困らせ亭主を困らせて居る身引の引しめ我が思い通りやり通そうとする心の埃なり口先が上手で憐天下であゝといへばこうといふ中々人をこぢりたい性である。故に右の悩みとなりたるものなり。

當年二十七歳女十二指腸の悩み。

此理は儲けたいへらしともない其心充分使ひ何んでも金銭を儲けて身代を拵へようと思ふて我身我家へ取込む算段多く其事に充分苦風苦心をこめたる理にして其心なる故に金銭

の入る度金銭を出す事の出来たる時には必ず心を痛めくして出したる埃積りたる故なり又其様なる心を使ふも前世より天恩人の恩を忘れて恩に盡きて居る故貧しく通らねばならぬ尙貧しくなれば目上即ち親又は女なれば亭主の身代のやり方がかいしよが無いように思ひくして日々不足くにせしものである。故に前世よりの因縁を能く思案して改良すべし。神の恩又は目上に對しての恩をすつかり忘れてしまひ人には慈悲の心なく其理に迫りて自然に身體が青く土色となるなり。

當年五十一歳の男幼七八歳の頃より眼光薄く四十二三歳の頃より次第に見えぬ様になりたる悩み論し。

此理は實父が恩人には不忠親に不孝にして主人や恩人の物を甘く他人に知れぬ様に引込みたるの理で又親の物は氣隨氣儘に果し又人の女房を盗み姦通して隠くしく甘く包みたる埃が種である。性質は親にも至て水くさい親の恩知らずで又主人や恩人にも至て水くさい恩知らず恩を返へす心の無き仇で返へす事はかりである故右の原因より本人に顯れた

るなり。それとても我身丹誠盡して右の通り返へしに神様の大神を知り尤も親を恨むる心を改良して神の指圖を疑念せぬ様に真心すれば利益あるべし。

當年二十八歳女子宮病十四五歳の頃より何ごなく眼光薄くなりたる惱み論。

此理は両親がする事成す事が逃れて自然財産を無くしてよわつた〜と心に悲観して心配案じて心をつかれさし物の耗る度毎には十分惜い事や〜と思つて惜み〜したる埃にて且つ出す事よりごおかして甘く取込度いといふ苦風をさして萬事一文でも出さぬやう取込む算段の強き埃。

當年四十五歳女子宮病より子宮癌となり腹へ差込むは子宮癌のわざで子宮癌の如く又腰のあたりへ筋の痛みは背髓癆の始めなり此病の身上論し。

今世に親に早年に死別れしは前世にて氣儘放蕩して親の意見を用いず親を見捨て、氣儘をせし因縁で今世にて親に早く死別れたるのであり又始め子宮癌は氣至て短かく人にいわ

れると腹立尤も我れの身爲めになる事をいわれても我れの氣に好かねば萬事に氣短くして非常に腹を立てるといふが持前である。又夫に不貞とは秘し男を拵へ其隠くし男大切に於て夫に満足させぬのである。又其氣隨氣儘をしながら一家の内をしめよう〜として勝手に怨をかけ手強く氣強い故夫とも眞の心の續ぎを切親にも前生の理として續ぎが切れ又恩ある人にも續ぎを切り又他の男にも怨をかけて切りて恨まれて居るのであるから右の理を懺悔して氣儘短氣慾先きの要害心の強い硬い心で目上に他人に限らず眞に續ぎを切り情け心の無き精神を改良して眞實より其通り返へしの心の事情定むれば利益あるべし。

腹へ差込むは氣儘の慾で總て夫婦の中を短氣にて切りたるのである。腰のあたりの筋痛みは我慢強情亭主のいふ事を用いず聞かずして我れが登りきり亭主に尻を向けて氣儘をいたるのであつて又縁談の堅き約束を無にせし埃りともいふなり親不孝は勿論の事。

總べて子宮癌は親不孝氣隨氣儘の事は勿論なり第一夫には貞節の心無く又子供可愛と云心なく姉妹にも可愛心なく口先のみで人と定約した事は勝手次第に逆すして通る嘘偽の埃

當年十八歳の女最初は筋儂麻質斯の處次第に節々に顯はれしは關節
儂麻質斯。

二一六

本人の性質は得手勝手氣儘疍癩至て氣短くして目上のいふ事は用いず聞かず立てずして仲々強情にしてあゝといへばこうといふ一つ／＼心に持つて人にこちくりたい性分にて一つ／＼争い又我身最負心から勝手に理詰を組みては親又は目上のいふ事を聞かず尻敷きにしたる強情高慢にて何とか人に節を付けるとか人の言葉の尻を取つては人に反對し逆らいたき性ゆい總べて筋にて引きしめるは右の埃からにて首に係りしは親をいぢめてある理本人前世の因縁は我身を可愛がつてくれる人を目下に見て尻に敷き氣儘が餘りて人を不足にして切り其心故縁組しても人を不足にしては切り先方の男にも人にも恨まれ内の親には不孝夫には不貞女の埃が足の膝筋に顯われ又筋は身最負の引込より人を理詰で押へる埃此前世が即ち今世に其心通り十分ある故無論色情の間違いはあるなり。

又娘本人の性質は母親の若き時と同じく母と娘と埃りの思い違ひ前生共同様にして娘は

殆んど前生丈の埃なれば今世は親の埃にて本人前世の埃が即ち親にあるなれば親子供改
良すべきなり。

母親亭主を不足にして尻を向け表面は夫婦の様なれども心は切つて居る處ありて始終が
金錢に限らず萬事夫を見下げ我理を立て引きしめて慾の深く強情張り通りてあり又其前に
は夫に殘念踏まし我身にも殘念せし埃あり。

當年四歳の女子二歳の時より兩眼見えす又手足自由ならざる惱みの

論し。

本人の兩親色情縁談の道にて親に不孝の道を通り來り殊に母親我出世名譽を望みたる爲
めに親の苦勞を無にして親に不孝の道を通り又我が目的の達せざる事ありて非常に心を痛
めいわず語らず心配したる事情あり又若き時今では子の無いがよいと思ひ込んで心得違ひ
をせし種もあり又我身が何事も出來る自慢で人を見下げて心登りきり身引の高慢我慢にて
登り曲がりたるなり。

二一七

又此子供は朝明け方に宿りたる理にて此理は前世より色慾の間違の道ありて前世より盡色情を行ひたる理なり我れ才智にて理屈をいふて人を困まらし夫親の胸を痛めたる埃の懺悔第一なり。

當年五十四歳最初肩が凝り足だるく腹に廻り水落底つめたく右の乳の下も底つめたく夫れより下痢發生の爲一晝夜に十二三回程下痢す其の容體赤痢の如く又腹の中に棒の如き突張り動氣を打ち尻の穴の中折々針で突く様なる身上惱論し。

此人の性質は表皮より真底の心慾強し堅い我身思案の心強き性質にてうぶ素直なる柔かい思い切れよい心などは少しも無く堪忍の心も少しも無く神天理に切れ兩親夫婦目上の者には皆切れてある故此恩を知らず恩を返へす心なく日々表面の働きの事のみ心使ひ身體胸三寸を心が飛出であつてこうしてと身に附ける算段ばかり強き故肩も凝り足もだるくなる。身體に心のあき家で居る故水落乳の下もつめたくなる又人を恨み人を憎みて日々こ

れでも足らんあれでも足らんと足らんくの不足でこすいせすい心で我身通り思案の慾で人のいふ事はこぢり用ゐず聞かず何事も素直になく又内々理屈のいひ合ひ不足のいひ合ひある故下痢赤痢となる。又尻の穴の中針で突く様な理は負惜み強くして恩ある人でもいひ込めやり込めするので又人にいわれたる時は其場いわずして後で充分腹立たたのである。又腹の中の棒の如きものは一面慾張心の強いのであるが物事を巧みてはそれが逃れ逃れては又巧みして段々慾をかけ其逃れたる時には短氣を起し腹立段々昇りたる埃なり。故に前文の性質無形の天理に切れ親の恩を忘却して親に切れ目上の者ども切れたる處能く懺悔すべし目下の容體では牛馬の道に落ちているのである故改良が第一なり。

雜之部

●怪我をする理 慾情から人をおかまわずに續ぎを切つた理無理の方無理いふた方がけがをする皆其個所に依り及物により刻限等に依りて理を分け事情見分する。

○悪氣の心氣の強き怒の爲めに理を逃し恨腹立。總べて怪我でも生物に咬まれ刺されたでも一切身上の續ぎ切れたるは人と續ぎを切つた埃なり。

●突創 は人を突きおしつける怒から人を突く強い心。例へば理屈で人はいわさん迄も押込み切る心言葉に出てある腹立は勿論憎くみ既に言葉に出てあるから憎み向ふ行き強く例へば人を無理に取扱かい人の續ぎを破る如し。

○物事にだちをあげてない腹立さす。

●打ち傷 は十分腹立てても向ふていふてない恨み腹立半分づゝ皮が切れて居らん心の内にある。

○人を事を打ち人の傷つくるをかまはず續ぎを切り怨み怨みられる。

○人を打つ打れたものゝ不足人の猜み又たとへ我子でも粗末にすれば天より打れる理もある。

●擦創 は人とすれ合いの腹立。例へば互に不足つけ合ふて言葉荒くいひ過ぎ續がす切る。

る如し。

●刀傷 遺恨重つた。鬱憤晴らされてない理。氣違いで刀を持つて振る様なのは此の理がある。

○又人を斬つた埃もある。

●切りきざす 總べて心使荒く人と續ぎを切る表に現れたる腹立切口上切言葉等より其深淺大小身體の場所等にて見分すべき事。

●高い所より落ちる は己れが心の高慢の埃なり。

○或は人をつき落す人の位の落ちる下る出世を防げる如き悪しきたくみ心はこびをなす如し。○例へば親恩人目上に反對不足する如き。

○高い處にとまる如き心。例へば我れ行届かざる事は思はず人の缺點を見て人を不足になし或は人を見下す如き總べて高い心。

●穴へ簀まる は人を穴に落した理例へば無道に人を罪に落とし入れる如く人を穴には

める心。

○人の落ちど穴をひろいて人を落とす押しはめる人に落ちどをさせる如き巧み心。

●木で怪我する理　は曲つた事にしてある理物を盗んで上手に知れぬ様になつてある理と又やるべき物やつてない故に先方から腹立の理もある右二通りあり大抵小さい事やとりやすいものが取つてある掠めてある理腹立が臺には違いない取られたら腹立つにきまつている。

●木の下になつて死する理　は我怪の理の大なるもの。法律の繩にからまつて重刑の懲に係るべき罪が加ゝらずに在る逃がれてある。

橋から落ちる　は色情にかゝる縁談又は金銭の事情續ぎを切る腹立恨み例へば人を乗せて落すが如き行爲。

山くゑて下になる　は親からして大恩を無にした理が重なる理小難なれば其の理小さいのなり。

○慾。

●海　川又井戸にはまり死するは親の大恩を無にした理。

○慾。

●石にて怪我する　は人を立てぬ腹立妬怨みの埃。慾から續ぎを切る。

○或は人に無理を通す硬たすぎる如き。

●脹れる　總べて脹れるといふ理は心の不足をいはず發散させぬから其水が何所かに

出てはれる。

○慾。腹立。

●うづく　は月様月讀様の理。

○心をにやす。

○心を沸かす。腹立つ。

●はしる　は日様の理不足。

氣がいらつく。氣がはしる。(氣をまわす) 氣をもやす。

●火傷 は夫婦のすれ合親子のすれ合なるが臺は惜みから出る負け惜み身惜の不足腹立から心をやす。氣を燃やす。

火は日様大恩の親様なり親不孝不足又婦人の心高く夫に従ふ心薄き。

●湯傷 大恩のある所を無にした理可愛がるべき者を惜みが臺。皆其の怪我の所と輕重によりて委細を知るなり。

總て回復するものは略々輕くとも一生の(傷不具となり)印の付くが如きは最重き因縁

●痛たい といふは皆大食天様の理刺すのも同じ或は虫などが刺すのも同じ。

總べて痛い事したのは腹を立つて切つたのや多く切れば多く痛む小なれば小痛心で切つた理が身の内が切れるから痛い。

○人を痛めてあるから痛む。

●痒い のは國狹士様の理三續なぎに係る爪でかくのは爪七大食天様で十分といふ理に

ていゝる理。

○我身最負。我方へかく引く金縁談續ぎの不足。

●疵口より 湯水の入り痛むは疵の理があつてそれから親不足其他恩ある人の眞實親切を無にする不足する理。

○いひ過ぎる。又人をひやす理もあり。

●火難 は惜みから心のすれ合ひにて燃えてしもう心合はず心の燃立程腹立氣を燃やす争論事情も同じ。出惜み耗り惜みも身惜みも負け惜みも皆惜心が臺にて腹立恨みで喧嘩すれ合ふ埃。

○色情の間違慾情の間違あり。

○埃さへなくば人が火をつける事も附ても焼る筈はない皆神が守つて御座る。

○家内中に日々いふ事の絶へ間なき心を煮やし合ひ。

●鐵砲傷 君に不忠親に不孝の埃があれば鐵砲にて死す此埃りがなくば霰の如く飛來る

彈丸の中をくぐつても當らん天の龍頭さへ切れねば人間は死ぬる事なし。

○人を敵として附狙ふ。

●切腹 氣短く腹立つ心。

短氣にして人を續ぐ心なく堪忍足らず天然自然の時季を待つ心足らぬ理。

●身投げ は自己の悪きを悪とせず腹立恨の埃積りて死のうくと思ふ心のつもり重なりなり。

○物の譯の分らぬ開分のない短氣。

海川池とかにて死する水死は親のして呉れる事が氣に入らぬ親に心が合はん親不孝首縊等は續ぎの方からの親不孝同様親不孝だが皆違ふ身投でも種々埃が違ふは勿論なり。

●頸縊 金銭色情縁談も同じ事にて親不孝の因縁なり。

●卒倒 は立てべき處が立てない理。例へば湯に入りて卒倒すれば兩親の慈悲を不足にする如く。

○倍氣嫉妬の強いものが酒焼酎に足を取られる如し。

○氣が高い短氣癩逆上。

●頭をくらわされる 等は親不孝の理頭は皆親に限る頭を怪我するとか頭に傷等のあるのも親不孝の理なり。

●踏み抜きをする は腹立也。例へば針を踏刺すは慾で親の恩人を踏付けるとか皆其物に依て理分○人に返すべき金を返さず踏む。○重き理をきめておいて俄かに逆すし人を驚かし腹立さす如き。

○人を突く口に出して突張る人にはせぬ迄も理屈で押込む如し。

●蝮に噛まれる は表はやさしくとも心に巧のある心の底に毒のある。

例へば他の人には表向よういふて内輪では強くきつういふて突張る如し人を噛みつける心。總べて毒虫は皆人間の埃にて生ずるなり。

●蛇 は元女が怨み殘念で死んだ肉體から出来る故蛇に係る埃は一切此の理なり。或は

蛇が女の陰部に入りて死するものあり之等は前世から恨殘念の埃が重つてある。

男は女の如く死ぬる程思怨まぬいふてしもう如く女に限る女は恨みの爲めには蛇にでも生れかはる理がある。(總べて怨み女に限らず)

●魚の子に酔ふ は身最負の埃にして例へば我子の事は何んでもよく思ふ人の子のする事は氣に入らぬ如く分隔て強い心魚も一樣に非らず魚に依りて理を分ける。

●飯中の石を嚙む は不足腹立を言葉に出し力む心でいひ突張る理。

●犬に嚙まれる は腹立の埃。總べて齒は刃物武器である大食天尊續ぎを切るから身上の續ぎが切れる。

●牛につかれる は我身馬鹿押しが強い負けるべき處負けぬ。慾情からのもあり○人を突倒してもかまはず強慾で押しつける如き。

●馬にかまれる は負け惜み負けん氣の強い理。但し畜性といへ共神の借物人間世の爲に勤めて居ものなれば慈悲を以て使ふべきもの之

を人間慾深きため無情なる慘酷の取扱かいすれば自然の理で我身に害を受くるは勿論なり

●家畜の煩らい は人間の代り小難なり主として其飼主主人の心の理なり就中牛馬は一家共身に付ける取込強く身引の目上目下に心合はず慾深くして心強情の埃。

●狐狸 などの人間に附くといふは皆其畜性に等しき人面獸心の行爲をなしたる其の理が働きて皆其心が顯はるる也穢なき小さき心。

●南京虫 の湧くは其の虫と同じ心の埃が其家の主人なり家族に在るこすいせすい人の血を吸ふかみ込むといふ。金錢食慾色慾總べてあつかましい狡猾な人の心を煩わす埃成程と聞いた位ではならん十分御道を聞分て立替出來ねば神がその虫を退治なさらぬそういふ人間がだん／＼出來れば虫もだん／＼殖える。

●蔓 にかぶれるは外でようて内である所謂内入りのわるいといふ。○我慢高慢。○善悪を分けず一緒にし人に氣觸れる理もあり内にては強くいふて突張る心あり。

●蠶の腐る理 は内々互に續がる心無くして恨み合ひの埃なり身がこいの理。又外とに對しても同じ國狹土尊の御意見。(此神の理から出來て居虫)

目に見えん耳にきこるん埃

二、おしみ、

内三、うらみ、

四、はらだち、

目に見える又耳にきこえる埃

六、にくみ、

外七、きれる、

八、かふまん、

右八つの埃の裏表

一は不足の始り、心の九、則苦、五の裏は五にて十、

外部の行を見て内心を知る事左に悉し。

天保八年酉春

蔬食二益

安身以裨福
寛胃以裨氣
省費以裨賤

泰平の御代物毎自由成より有難き御恩を忘れて人々衣食住萬事奢侈に移り心得を失ひ不忠不孝の徒となり行を天より御誠有て去年五穀に實のらす綿と同じく飢寒の苦しみ甚だ恐るべし〜されば、忠孝を勵み奢侈を慎み儉約を用ひ法を守り家業を勵み己が欲をこらへ少しなりとも粗食せばいつしか天の御心も安まり世なみも直り豊饒なる若是に省きて猶此の上如何なる禍を招くも計られず、依て草木の若葉若芽莖の根などの類、食して毒にならずしかも澤山ありて手入安き物を救本草より書出し又れき〜方の改誠られしを九十品餘り寄にする惣じて粗食をするに煮焚を粗末にすべからず命をつなぐ元なれば呉れ〜氣をつけ加減よくすれば其品に従ひ相應の風味有て裨となり身は健にて病なし腹のぐあいも

よく、日々の暮し方の費もすくなし、去により世界に米の全く盡きざる中早く心を用ひ何にても雑煮に入れなごして米一合なりとも喰のばすべし是天の御心をやすめ神佛の御計いに叶い國恩を報じ奉り世上の人を助け其の身も助かり子孫まで福分の基と成るべし、人々心の誠をこらし只粗食勤忍せば一身の一家一村一町の利益のみならず國天下と雖も同理にて四海一統飢寒の厄をのがる可し。

若芽若葉莖の類

せつなつなこりこき
其外常に食類にする物は寄にせず

くわ、ゑのき、ゑんじゆ、さくら、あんず、なつめ、もも、りんご、ねむ、むくげ、くのぎ、ほそ、むく、ゆづりば、たろふ、りやふぶ、はこやなぎ、くちなし、かちそ、はぎ、くばらしやくび、れんきよふ、くさぎ、きり、ふじ、またび、にんごふ、はけいどう、あざみ、おにあざみ、ひめあざみ、ついぶき、たんほく、なでしこ、ふき、おばこ、あさお、けたで、いぬたで、おくるま、やくもそ、まんりんくわ、やぶしらみ、ゑごま、かこ

そう、きよやふ、かわらけなつゆくさのこき、のぎく、すみれ、むらさき花、ちよこ、くわんど、かわらさいご、いたごり、くわれんげ、らま、ほふぎ、うしをほうづき、あかねかんあまいからすうり、ほふこ、ぎらく、きく、すひすかんほのこき、げんげ、すきな、よごみ、ははたん、ゆきのした、かぼちやはのじく、ふどあわかめ、よしわかめ、あしわかめ、まこもわかめ、さつまいもつる。

根類 物により、うすく又こまかく切る

山午勞、まを、ひるがを、山人參、どころ、つりがねそふ、まんちゆしやけ、てくさう、花のこき、かやつりくさ、じやのひげ、つたな、かわほね、かま白根。
右根葉共何れもゆで、水にさらす、尤もにがみ強く煮ものは濃あくにつよくゆで水にさらす。

實の類

珠數玉すだたまがわらすき方 さうごめ、からす麥、ゑごま、ゑのこくさ、ひしこれはゆでくろふ
右何れみぎいづもから白つすにてあら皮かはを取とらすにてひきゆるごに入だんごもすべし。

日々三度粗食そしょくする共ともありがたや

飢うへに苦くるしむ事ことをおもへば

採と草くさ湯ゆ 九こしな

じゆやく、よもぎ、ひのきは、白なんてん、もちなる、せきしよ、にんごう、くす、おば
こ。

一袋 一寸みにつく

二袋 たあぶり(六つぼ)ろくたい

三袋 (三つ)みにつく(九つぼ)くがなくなる

五袋 (五つ)りをふく(十五つぼ)十分理をふく

七袋 (七つ)なあにもゆう事ない

(廿一つぼ)たあぶり一にはじまる

九袋 (九つ)くがなくなる

(廿七つぼ)たあぶりなんにもゆう事ない

◎因縁つくる持前性分

子、金をふやそうくくにあり

丑、すなを嫌いで強情がゆへ

寅、わしがおれがで言張るがゆへ

卯、あすありと思ふ心こころのものうさにあり

辰、まけるが勝の徳しらぬゆへ

巳、ねたみ猜みの心あるゆへ

午、金持らしくみへはるがゆへ
 未、案じ心の深すぎるゆへ
 申、仁情うすき意張かんしやく
 酉、高慢智恵で惻口ぶるゆへ
 戌、勘忍足らぬ無しやくしや腹
 亥、片よる癖や一こくがもと

三ツの理

世界にて助からねばならぬ理
 神様は助けにやならぬ理
 人間は助けて貰はにやならぬ理

枝 こゝろ
 氣 き
 腹 はら
 立 た
 白 しろ
 内外 うちそと
 身 み

胃病 いびょう
 恨 うらみ
 人 ひと
 今 いま

高慢 こうまん
 苦 く
 九 く

317
683

大正十四年十一月十日第一版
昭和二年一月二十日第二版
昭和三年四月二十日第三版

編輯者 奈良縣丹波市町三島 安江

發行者 奈良縣丹波市町三島

天祐

代表者 安江

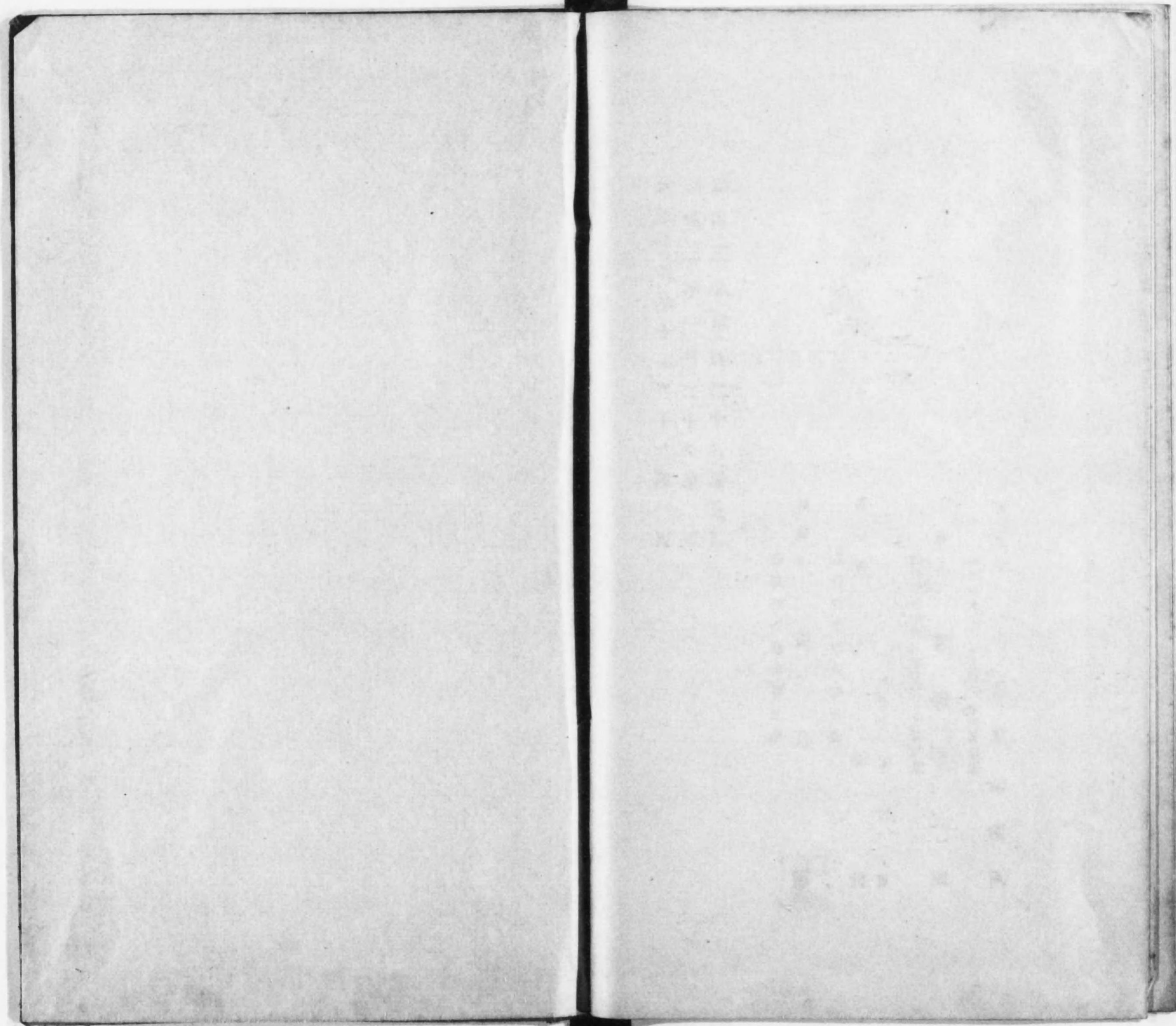
神戶市布引町二丁目二十三番屋敷

印刷人 淺野好三郎

神戶市布引町二丁目二十三番屋敷

印刷所 白馬堂印刷所





終

